

<事業概要>

【概要】

観光庁では、観光分野におけるDXの推進により、旅行者の利便性向上や観光産業における生産性向上等に取り組むとともに、地域間・観光事業者間の連携を通じた地域活性化や持続可能な経済社会の実現を目指した取組を推進しています。令和4年度は、旅行者の移動・購買等に関するデータを活用して、観光地経営の高度化を図るため、地域内・地域間・事業者間のデータ連携や、収集したデータの利活用等に関する実証事業を行いました。

【実証事業】

■DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進による観光・地域経済活性化実証事業

■持続可能性の高い観光地経営の実現に向けた観光DX推進緊急対策に係る実証事業

令和4年度DX事業の採択案件の一覧



※本事業において採択した実証事業については、観光庁Webサイト内及び観光DX事業公式Webサイトにて紹介しています。

・観光庁Webサイト：https://www.mlit.go.jp/kankoch/shisaku/kankochi/digital_transformation.html

・観光DX事業公式Webサイト：<https://kanko-dx.jp/>

■一極集中下の来場客を活用した地域経済活性化事業

団体名：スポーツイベントツーリズムコンソーシアム

事業概要：スポーツ興行は、定期的に人口流動や消費をもたらすイベントですが、スポーツイベント来場者を周辺地域に誘導することができていないという課題がありました。そこで、スポーツイベント来場者に対して、戦略的な情報発信により地域周遊を促し、経済活性化に繋げるために、北海道札幌市・茨城県鹿嶋市・京都府亀岡市・静岡県清水市・福岡県福岡市の5地域を実証地域に設定し、“ユニ着て旅する”をコンセプトにスタジアムでのJリーグ試合観戦の前後に周辺地域への観光を促すためのスマートフォンアプリ「ユニタビ」を開発しました。当アプリを介した情報や特典の提供により、周辺施設の周遊促進を図るとともに、スタンプラリー機能を活用した来場者の動態データを分析した取組をご紹介します。

紹介URL：<https://kanko-dx.jp/case-study/95/>

一極集中下の来場客を活用した地域経済活性化事業 (スポーツイベントツーリズムコンソーシアム)

実施地域

北海道札幌市、茨城県鹿嶋市、静岡県静岡市、福岡県福岡市

事業期間

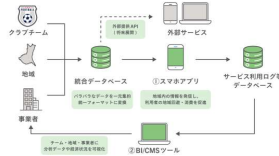
令和4年6月～令和5年1月(予定)

事業概要

4つの地域における事業者やクラブチームが保有・発信する情報(観光・飲食・混雑情報等)を一元的に集約した情報発信基盤・アプリを開発し、Jリーグの公式戦などの来場者が集まる場で、戦略的な情報発信等による周遊の促進や入場の誘導等による消費の拡大を図る。
また、「都市・観光型」札幌・福岡、「郊外型」鹿嶋・清水を先駆モデル実証地域に設定し、地域間連携の加速や相互送客の促進により、これまでの懸念に変われない継続的な経済循環を目指す。
さらに、アプリ上で取得した観客動向や観客属性、GPS等の行動履歴、来訪手段等の情報を各地においてデータ共有することで、さらなる消費や交流、相互送客につなげる。

実施体制

観光等事業者：びま(株)、(株)ナビタイムジャパン、
デジタルマーケティングインテグレーション(株)



ダウンロードは
紹介サイトから

「ユニフォームを着て、街を旅する」

をコンセプトに、サッカー観戦と合わせた体験を促進するアプリを提供

観戦QRチケットを登録すると、**スタジアム・地域に紐づく情報**が閲覧可能

おすすめ店舗紹介

サイン撮影、スタッフ行きつけ、ファン行きたい等の店舗を紹介

観戦&観光ガイド記事

ユニフォームを着て、スタジアムだけでなく、試合前後の移動中や前を満喫するためのガイド記事やコラムを発信

経路探索

試合開始前までに合わせて、徒歩のナビリティを活用した経路検索が可能

<登壇者>

観光庁 観光資源課 新コンテンツ開発推進室 佐藤室長による開会のご挨拶では、観光DXの目指す方向性や今後の取組についてお話しします。また、観光について幅広い見識を持つゲストをお呼びしてトークセッションを行いながら、観光DXの推進で成果を出すにはどのような体制・プロセスで取り組むべきなのか、観光分野におけるデータの利活用がなぜ重要なのか、これから先の観光分野とDXの可能性等をディスカッションする予定です。

■開会のご挨拶



佐藤 司（さとう つかさ）氏

観光庁 観光地域振興部 観光資源課 新コンテンツ開発推進室 室長

観光庁において、観光地における消費額増加や体験価値向上を目指し、観光分野におけるDXを通じた持続可能な観光地域づくりや第2のふるさとづくりやワーケーションを通じた国内交流拡大の推進を担当。

■トークセッション（1）

「観光DX事例から学ぶ地域が稼げる仕組みづくりと取り組むべきプロセス」



池上 桂一郎（いけがみ けいいちろう）氏

株式会社西村屋 常務取締役

慶應義塾大学環境情報学部在学中の1996年、学内発のウェブマーケティング企業立ち上げに取締役として参画。大手広告代理店、調査会社との協業に尽力した後、2007年より城崎温泉の旅館・西村屋のIT担当室長として社内外の情報化とインバウンド対策に取り組む。2015年より現職。



日野 昌暢（ひの まさのぶ）氏

株式会社博報堂ケトル チーフプロデューサー

2000年に博報堂入社。14年間の営業職を経て2014年よりケトルに加入。また「本質的な地域活性」をテーマに、「外から目線」で地域資産を再編集し、地域のプレイヤーの“関わりしろ”を作りながら、事業、プロジェクト、プロダクトを共創し、開発して、情報発信を行っていくことを得意とする通称“ローカルおじさん”。主な受賞歴に、2度のACC TOKYO CREATIVITY AWARD グランプリ(2018, 2022)、グッドデザイン賞BEST100(2022)、Spikes Asia ゴールド(2019)、カンヌライオンズ ブロンズ(2013, 2019)、ADFEST ゴールド(2019)など。



秋本 純一（あきもと じゅんいち）氏

観光庁 観光地域振興部 観光資源課 新コンテンツ開発推進室 専門官

観光庁において、観光地における消費額増加や体験価値向上を目指し、観光DX事業の推進を担当。

[ファシリテーター]



山田 泰弘（やまだ やすひろ）氏

ブランコ株式会社 代表取締役CEO/CCO、アートディレクター、二級建築士

インテリアデザイナー、建築現場監督、建築営業マンを経て、2006年にデザイン会社ブランコ株式会社を設立。企業ブランディングを軸に、ウェブデザイン、グラフィックデザインを強みに事業を拡大している。また、福岡IT・クリエイティブコミュニティの中心人物の1人として、2011年に明星和楽の立ち上げ、Fukuoka Growth Next のブランドマネージャーなどを歴任し、今に至る。

■トークセッション（2）

「観光DXで実現されるこれからの観光」



沢登 次彦（さわのぼり つぐひこ）氏

株式会社リクルート ジャらんリサーチセンター長 とりまかし編集長

1993年4月株式会社リクルート入社。教育機関広報事業部を経て2003年4月に国内旅行事業部へ。関東近郊観光地のエリアプロデューサーとして地域活性に携わる。2007年4月より現職。観光庁を始め中央省庁や地方自治体の各種審議会委員、講演・研修等を務める。



陳内 裕樹（じんない ひろき）氏

東北芸術工科大学客員教授、コミュニティデザイナー

大手旅行会社にて市場開発、オンライン販売、コンテンツ開発業務を経験後、外資系IT企業に移る。内閣府クールジャパンプロデューサーとして、中央省庁、地方公共団体、教育機関、デジタル変革支援を通じた地方創生とデジタル田園都市国家構想の推進を支援。

その他、早稲田大学：招聘研究員、日本薬科大学 特別招聘教授、他、北海道から沖縄まで30自治体のアドバイザーを務める。前観光庁アドバイザーボードメンバー。



大迫 瑞季（おおさこ みずき）氏

動画クリエイター、インフルエンサー

TikTokやInstagramなどのSNSを中心に、デートや週末のお出かけに役立つ情報やアイデアを発信する動画クリエイター、インフルエンサー。福岡の旅館『御花』の動画は、日経トレンディ2021年のヒットランキング第1位「#TikTok売れ」の事例として掲載。

これまで「TOYOTA」や「三菱電機」などともタイアップを行っている。

[ファシリテーター]



山田 泰弘（やまだ やすひろ）氏

ブランコ株式会社 代表取締役CEO/CCO、アートディレクター、二級建築士

インテリアデザイナー、建築現場監督、建築営業マンを経て、2006年にデザイン会社ブランコ株式会社を設立。企業ブランディングを軸に、ウェブデザイン、グラフィックデザインを強みに事業を拡大している。また、福岡IT・クリエイティブコミュニティの中心人物の1人として、2011年に明星和楽の立ち上げ、Fukuoka Growth Next のブランドマネージャーなどを歴任し、今に至る。